

県民参加型外部評価システム構築事業に係る  
外部評価モデル事業

テーマ

「ユニバーサルデザイン」

特定非営利活動法人

いわてユニバーサルデザインセンター

## 目 次

1	はじめに（問題意識）	2
2	評価の主眼点	3
3	調査の方法	3
4	調査結果	5
5	ユニバーサルデザイン施策に関する提言	9

### 資料編

	避難場所指定施設に関するアンケート調査結果	14
	観光のユニバーサルデザインアンケート調査結果 （岩手県内観光施設及び宿泊設ユニバーサルデザイン調査）	18
	一般県民ユニバーサルデザイン意識調査 （小学校父兄に実施したユニバーサルデザインアンケート調査結果）	22
	岩手県内のユニバーサルデザインに取り組む市民団体への意識調査	26

## 1 はじめに（問題意識）

年齢、性別、能力の有無に関わらず最大限利用可能な社会を目指すユニバーサルデザインについて、岩手県では、平成7年に「岩手県ひとにやさしい街づくり条例」を制定。保健福祉部内に「ひとにやさしいまちづくり推進室」（現在は地域福祉課に移管）を設置するとともに、ユニバーサルデザイン推進組織を立ち上げ、全職員の研修等がなされてきた。

岩手県における行政の取り組みとは別に、早い段階から市民が中心となって活動が展開されていた。また、ユニバーサルデザインはおろかバリアフリーという言葉さえなかった平成5年、盛岡市民12名で設立されたアクセシブル盛岡が、さまざまな業界や福祉行政担当者、障害者、ボランティアを巻き込んだ市民活動を実施。その活動は県内各地に広がり「アクセシブル」という名称を持つ団体が県内に10団体も設立され、東京をはじめ全国にもそのネットワークが広がっていった。

全国の都道府県行政が民間の活動組織育成に苦勞する中、岩手県では市民による熱心な取り組みが、行政に多くの影響を与えながら、ユニバーサルデザイン普及に向けた取り組みが官民で普及してきたと言えよう。

しかしながら、ユニバーサルデザインは、未だに福祉分野の課題であるという考えが根強く、福祉分野以外において、ユニバーサルデザインについての配慮が十分とは言えないのではないかと考えられる。

このことから、福祉以外の分野でユニバーサルデザインに関する取り組みがどのようになっているかを調査し、併せて県民のユニバーサルデザインに対する認識を把握することが、今後の施策のあり方を考える上で有益であるとの思いから、外部評価を実施することとした。

## 2 評価の主眼点

ユニバーサルデザインは、福祉分野のみではなく各分野にまたがる総合的な観点から取り組んでいく必要があるという認識のもと、福祉分野以外において、ユニバーサルデザインが施策のカギになると考えられる調査項目 及び を選定した。

また、ユニバーサルデザインの県民の認知度等を調査するため、調査項目 を設定した。

### 避難場所としての学校

社会の高齢化に伴い公共的建造物のユニバーサルデザイン化の重要度が増している。例えば避難所としての学校や庁舎等は何処まで進んでいるかユニバーサルデザインの視点から調査する。

### 観光のユニバーサルデザイン

平成12年度段階における岩手県内観光地、宿泊施設のユニバーサルデザイン調査結果と平成18年における進捗状況を比較する。

### 一般県民意識調査

条例の整備や普及推進事業が取り組まれてきたが、県民の意識としての普及度を調査する。

## 3 調査の方法

### 難場所としての学校

- ・ 調査地域：盛岡市
- ・ 調査対象：調査地域内の小中学校
- ・ 対象校数：46校
- ・ 抽出方法：地域によって偏りが出ないように調査校を選定
- ・ 調査方法：アンケート調査用紙を対象校に持参、訪問による回収
- ・ 調査実施期間：平成18年8月16日（水）～8月30日（水）
- ・ 調査の回収結果：回収数 31（回収率 67.4%）

### 観光のユニバーサルデザイン

- ・調査地域：県内全域
- ・調査対象：岩手県内観光地、宿泊施設
- ・対象箇所：61箇所
- ・抽出方法：平成12年度岩手県観光協会調査対象施設と同一施設（廃業や廃止等施設を除く）
- ・調査方法：アンケート調査用紙を対象者に郵送、郵便での返送による回収（一部電話による調査を実施）
- ・調査実施期間：平成18年8月16日（水）～8月31日（木）
- ・調査の回収結果：回収数35（回収率57.4%）  
内訳 観光施設18箇所、宿泊施設17箇所

### 一般県民意識調査

- ・調査地域：北上、一関、大船渡、久慈
- ・調査対象：ユニバーサルデザインに取り組む市民団体
- ・対象団体：4団体  
久慈UD推進隊、両磐地域まちづくり探検隊、  
NPO アクセシブル北上、気仙ひとにやさしい街づくり協議会
- ・調査方法：ヒアリング調査
- ・調査実施期間：平成18年8月24日（木）～9月12日（火）
  
- ・調査地域：盛岡市立米内中学校及び矢巾町立煙山小学校
- ・調査対象：小中学生の父母
- ・対象人数：270人（生徒全員）
- ・調査方法：学校にアンケート調査用紙の配布・回収を依頼
- ・調査実施期間：平成18年8月16日（水）～8月30日（水）
- ・調査の回収結果：回収数142（回収率52.6%）

## 4 調査結果

避難場所としての学校（調査結果の詳細は、P14～17）

### [ 現施設の周知状況 ]

避難場所に指定されている学校数は87%と高い割合となっているが、学校側から地域への周知活動などは行われておらず、避難訓練の実施状況は、同一市内にも関わらず回答にバラつきが目立った。

（「定期的に訓練を実施している」という回答が22%であったのに対して、「実施したことがない」という回答は67%）

### [ 施設の整備状況 / 整備計画 ]

高齢者・障害者向け設備を整備していない学校が、設置している学校数を大きく上回る結果となった。

設備の有無については、学校施設の建設・改修時期も関係していると思われるが、今回の調査では、施設の整備時期については調査項目に加えなかったため、その点についての分析はしていない。

次に、高齢者・障害者向け設備の整備計画については、計画がある学校は1件のみで、その他の回答では、「今後予算化も含めて検討する」という回答が12件（39%）、「予算要求するが難しい」という回答が11件（35%）と、今後の施設整備に関する積極的な回答は少ない。

### [ ユニバーサルデザインについて ]

ユニバーサルデザインという言葉の認知度は65%（20件）となっているが、「良く聞くが意味が分からない」という回答も16%（5件）あり、ユニバーサルデザインの理解度が十分でないことが伺える。

### [ 避難場所としての学校調査結果に対する総評 ]

公共施設の中で学校はユニバーサルデザインが一番遅れているという意見は以前から多かったが、調査でもやはりその視点での取り組みは他の公共施設との比較でも明白である。特に現在あるバリアを取り除く（フリー）段階でも遅れている点は否めない。

この理由としては、財政状況が厳しい中での施設改修に予算がつきにくいといったこともあるかもしれないが、ユニバーサルデザインに関する自由回答にもあったように「避難所としての機能を高める」という意識がほとんどなく、高齢者や障害者が学校施設を利用することをあまり想定していないことが大きく影響していると考えられる。

## 観光のユニバーサルデザイン（調査結果の詳細は、P18～21）

### 〔観光施設等の整備状況〕

平成12年以降に、高齢者や障害者に配慮した施設整備を実施したという回答は24箇所（68.6%）となっている。その理由としては、高齢者や障害者の利用が増えていること、法整備が進んだこと、ユニバーサルデザインの考え方が普及したことなどが挙げられている。

施設整備が進んでいない理由としては、建物の構造上の問題、予算の問題という回答があった。

### 〔観光行政・観光団体への要望〕

誰もが楽しく過ごせる観光地を目指すために望むこととしては、研修会開催、講師派遣、資料提供など、情報の入手に関する要望が多くなっている。その他にはバリアフリー情報の積極的な情報発信を望む回答などがあった。

自由回答では、「エリア全体のレベルアップが必要」「一施設では限界があるので、地域のサポートが必要」といった、地域全体での取り組みの必要性についての回答があった。

### 〔観光のユニバーサルデザイン調査結果の総評〕

平成10年度～12年度に岩手県、岩手県観光協会が取り組んだ「ユニバーサルデザイン時代の観光」では啓発の為にビデオテープや読本の制作を行ない、その時代としては取り組みとしては全国的にも評価が高かった。

しかし、それ以降継続的な事業は実施されていない為、民間（個別施設）による取り組みは増えてはいるものの、観光行政・観光団体への要望としては、情報入手についてのニーズが高く、地域全体での取り組みの必要性が指摘されるなど、接客上、高齢者や障害者へのサービスが十分提供できる体制が整備されているとは言えない。

(財)社会経済生産本部の「余暇活動の潜在需要調査(レジャー白書)」では、1位が「海外旅行」、2位が「国内観光旅行」という調査結果。高齢者に限ってみれば、「国内観光旅行」が1位となっており、今後ますますユニバーサルデザイン対応に関する問い合わせやニーズが増えていくことが予想され、ユニバーサルデザインに配慮した整備やもてなしを支援し、それらを売りにするような観光の支援が必要となってくると考えられる。

## 一般県民意識調査（調査結果の詳細は、P22～26）

### 〔ユニバーサルデザインの認知度等について〕

ユニバーサルデザインという言葉を知ったことがある人は65%に上るが、そのうちの約半数がユニバーサルデザインの意味を理解していない状況が明らかとなった。

次に、ユニバーサルデザインに関する情報源として回答が多い順に並べてみると、テレビ、新聞、タウン誌、県や市町村の広報媒体、という順番になっており、行政からの情報入手はあまり多いとは言えない。

### 〔ユニバーサルデザインの必要性について〕

全ての人暮らしやすい社会の実現のために、ユニバーサルデザインが必要であるという回答は113件（80%）となった。

自由回答では、施設や物の充実も必要であるが、「思いやり」の気持ちがないと暮らしやすい社会とは言えないという趣旨の回答が複数あった。

### 〔ユニバーサルデザインに取り組む市民団体の意見〕

県内のユニバーサルデザインの市民活動団体へのヒアリングではユニバーサルデザインは組織横断的な事業なので「ユニバーサルデザインを総合政策の一環として」対応するセクションで担当すべきという声が多かった。

今後の課題としては市民団体からは交通アクセシビリティの整備や、高齢化にともなう公共交通のあり方の検討を求める声が多かった。

### 〔一般県民意識調査結果の総評〕

一般県民のユニバーサルデザインの認知度と理解度の間には明らかなギャップが存在しており、行政による意識啓蒙がうまくいっているとは言いがたい。

加えて、「施設や物の充実も必要であるが、思いやりの気持ちがないと暮らしやすい社会とは言えない」という趣旨の回答が複数あり、ユニバーサルデザインがそのような意識に根ざしているという理解が十分ではないと思われる。

次に、ユニバーサルデザインの市民活動団体に対するヒアリングから、行政における組織横断的なユニバーサルデザインの取り組みが十分でないことが伺える。今後の具体的な課題としては、高齢者・障害者

などの交通弱者に対する公共交通対策を挙げる声が多く、今後の交通政策の中で考えていく必要がある。

#### 総合的評価

基本的にユニバーサルデザインを認識する時、人権や生活権、さらにはノーマライゼーションの意識が重要であり、「福祉」から「人権」の観点への変革が必要である。社会の根幹、政策の根幹という姿勢なしでユニバーサルデザインは語れない。

近年のいじめ問題等を考える時「人を大切にする、人らしく生きる」ことが出来る社会はまさにユニバーサルデザインの目指すところである。学校、観光、県民意識等取り組む事項は多いが、先ずは一般県民が「ユニバーサルデザイン」という言葉を理解することが先決と考える。県民意識の向上が豊かな岩手県を創ることに直結している。

## 5 ユニバーサルデザイン施策に関する提言

提言 避難場所としての学校について  
災害時、非常時における避難については阪神大震災、新潟県中越大震災が示すように、地域の学校が避難場所として位置づけられている。しかしながら地域の安心安全となるべき学校がハード的にもソフト的にも整備されているといえる状況にはなっていない。大規模の災害が発生していないことによる油断もあり、早急な対策が必要となる。特に高齢化に伴い増大する高齢者、障害者といういわゆる社会的弱者を想定にした、かつさまざまな人に対するユニバーサルデザインによる政策的な分野を含めた社会的整備が今後必要である。

### [ 岩手県が取り組むべき事項 ]

#### 短期的施策

- ・学校の避難所について検討する県庁内の横断組織及び協議会の設置  
調査結果からも明らかなように、学校によって整備状況にバラつきが目立つ。避難所の現状を把握するとともに避難所としての機能基準などについて検討の上、避難所の整備に関するたたき台を作成し、民も含めて協議する場を設けることが望まれる。

#### 中期的施策

- ・教育関係者の意識改革 - 教職者向けUD塾の開講  
ユニバーサルデザインとは単にハード整備に関わるのではなく、様々な人の権利を保障するという社会の基本とも言えるものであるが、その点についての教育者の理解が不十分であることが調査結果から伺える。学校は、避難所としての機能を備えるだけでなく、児童生徒に対する教育的観点からもユニバーサルデザインについての理解を深めることは重要である。

#### 長期的施策

- ・さまざまな県民が避難しても対応できる設備を有する  
計画的に避難所としての整備を進めていき、長期的には、高齢者や障害者などが避難できるようにするべきであり、地域住民にもその内容を掲示・広報していく必要がある。

[ 学校現場が取り組むべき事項 ]

・学校単位の取り組みと地域への協力組織の設立

定期的に避難場所指定施設を利用した避難訓練を実施している学校は22%しかなく、災害に対する意識が低いことが調査結果から伺える。災害発生に備え、地域住民も含めて取り組んでいくことが重要である。

提言 観光地のUDについて

観光は分野が広く、岩手県にとっても重要な産業である。一方観光客の高齢化は顕著に表れている。今後観光行政、観光業界は高齢化におかに対応するかが観光地の生命線であり、高齢化に対応するユニバーサルデザインの視点での観光地づくりが急務である。

岩手県及び観光業界がこの後この点についてどのように体制づくりをしていくか明快に県民に示す必要がある。単に個々の業者に任せておくだけでなく、長期の計画を提示し、官民一体となった政策等が問われている。

[ 岩手県が取り組むべき事項 ]

**短期的施策**

・観光ユニバーサルデザイン推進協議会の設置

調査結果から、ユニバーサルデザインに関する知識や情報が観光業界に十分伝わっていないことが明らかとなったが、このことが、ユニバーサルデザインに対する意識が低く、地域ぐるみでの活動などが展開されていない一因ではないかと予想される。

以上のことから、観光旅行者の高齢化の流れに即した長期的なビジョンについてざっくばらんに話し合う場を設ける必要がある。

**中長期的施策**

・高齢時代に対応できる岩手県の観光地づくりの具体的な施策展開 / 観光ユニバーサルデザイン推進県の宣言

長期ビジョンに基づく観光地づくりを推進し、「誰もが楽しめるいわて」「おもてなし日本一」など、観光ユニバーサルデザインを県として推進していることを宣言、PRしていくことが必要である。

・県内の交通アクセシビリティ調査と対応策の推進

交通アクセシビリティの整備は、地域の高齢者や障害者だけの問題だけではなく、観光振興にとっても二次交通の確保が重要なカギと

なってくる。観光旅行者の利用も視野に入れたコミュニティバスのあり方について調査検討し、対策を講じていく必要がある。

[ 岩手県観光協会が取り組むべき事項 ]

**短期的施策**

- ・ 県内観光地のUD情報を再収集  
観光施設・宿泊施設調査の意見にもあったように、最新のユニバーサルデザイン情報を収集し、観光パンフレットなどへの掲載を推進することで、高齢者や障害者の観光旅行者を呼び込む努力が必要である。
- ・ 観光施設や宿泊施設向けの研修会等の開催  
調査結果から研修会などに対するニーズが高いことから実施すべきであると考えられる。
- ・ モニターツアーの実施  
地域全体でユニバーサルデザインに対する意識を高めるための手段として、実際に高齢者・障害者等が参加して観光地をチェックすることが有効であると考えられる。

**中期的施策**

- ・ 優秀施設の表彰制度の創設  
優秀施設を表彰しマスコミにPRするなど、ユニバーサルデザイン推進へのインセンティブとなるような取り組みを進めていく必要がある。

**長期的施策**

- ・ 県観光協会内に最新情報を提供できる情報センターの設置  
収集したユニバーサルデザイン情報をデータベース化し、高齢者や障害者からの照会に対応できる体制を整えるべきと考える。

[ 観光業界 / 県民が取り組むべき事項 ]

観光業界としても行政と連動して、以下のような取り組みを積極的に展開すべきである。

- ・ ユニバーサルサービス向上研修会の実施
- ・ 自社施設のユニバーサルデザイン調査
- ・ 自社施設への交通アクセシビリティ調査

また、県民は、旅行者に対して思いやりを持って接し、県全体のホスピタリティを向上していくことが大切である。

## 提言

### UDの啓発について

ユニバーサルデザインという言葉を知ったことがある人は増えているが内容まで理解している県民は少ない。これはいままでの啓発が限られた層のみであったこともあり、さまざまな層を対象に、特に小学校等の教育現場でユニバーサルデザインを啓発していく必要がある。

#### [ 岩手県が取り組むべき事項 ]

##### ・教育現場でのユニバーサルデザイン教育の実施

現在も一部の学校では、総合学習の時間を活用してユニバーサルデザインについての授業が行われているが、調査結果から明らかなように、言葉は知っていても、その意味について十分に理解されていないのが現状である。

人間教育の観点から、ユニバーサルデザイン教育を積極的に実施していくことは、重要であると考えられる。

##### ・市町村へのユニバーサルデザイン計画推進指導

雫石町、遠野市など、県内でもユニバーサルデザインに積極的に取り組んでいる市町村はあるが、まだ浸透しているとは言いがたいことから、市町村での取り組みを積極的に推進するための支援を実施すべきである。

##### ・広報誌等でのユニバーサルデザイン啓発推進

調査結果からも明らかなとおり、ユニバーサルデザインに関する行政の広報は十分とは言いがたい。広報媒体を積極的に活用して啓発を進めていくべきである。

##### ・「ユニバーサルデザイン推進県」宣言

「ユニバーサルデザイン岩手宣言」が平成14年12月になされているが、県民の理解が広まっているとは言いがたい。ユニバーサルデザインについて再アピールをする必要があると考えられる。

#### [ 市町村が取り組むべき事項 ]

市町村におけるユニバーサルデザインの取り組みは遅れており、今後は、以下のような取り組みを進めていく必要がある。

##### ・広報誌等でのユニバーサルデザイン啓発

##### ・町内会等地域内の団体へのユニバーサルデザイン啓発

- ・ 庁内研修の実施
- ・ ユニバーサルデザイン基本計画策定

[ 各種団体（経済団体・観光団体・教育団体等）が取り組むべき事項 ]

- ・ 機関紙等でのユニバーサルデザイン啓発
- ・ 下部機関（所属機関）への広報

提言

UDの今後の行政の取り組みについて

福祉分野に関する県民意識の高揚が伺われるものの、福祉分野のみならず様々な分野での継続した取り組みが重要であると認識を新たにしました。啓発や様々な施策は引いては県民の意識向上につながり、さまざまな業界への広がりとなる。

熊本県や静岡県など企画部門において総合的にユニバーサルデザインに取り組む都道府県は10団体以上となっており、その取り組みは先駆的な内容となっている。

これらのことから、これからの豊かな地域づくりの基本にユニバーサルデザインを据え総合的に推進していくためにも、保健福祉部でなく総合政策担当箇所での取り組みが重要である。

[ 岩手県が取り組むべき事項 ]

- ・ 総合政策担当箇所に担当者の配置
- ・ 庁内組織と民間との提携、交流推進

最後に

全ての分野に当事者の生の声が反映されるような工夫が不足しており、その対応はまさしく「県民主体の県政」への試金石と言える。

## 避難場所指定施設に関するアンケート調査結果

このアンケートは、それぞれの地域の学校等を避難場所として指定しておりますが高齢者、障害者などが利用できる施設になっているかについて調査し、今、見直し作業に取り掛かっている「ひとにやさしいまちづくり条例」に反映できる調査項目の検討資料にすることを目的にお聞きしますので該当するものに○印を付けて下さい。

1 あなたの施設は避難場所に指定されてますか。

①はい 27件(87%) ②いいえ 4件(13%)

2 ①にお答えになった方に伺います

現施設の周知状況に伺います

3 避難場所指定施設であることを地域に対し周知活動してますか

当施設として独自に実施している 0件

行政がやっていると思う 24件(88%)

やっていない 3件(12%)

4 避難場所指定施設を使った避難訓練をやってますか

定期的実施している 6件(22%)

今後実施する計画がある 0件

全然実施したことない 18件(67%)

過去に実施したことがある 3件(11%)

施設の整備状況について伺います

5 出入り口にスロープについて

①設置されている 12件(39%) ②設置されていない 19件(61%)

- 6 車椅子用トイレについて  
①設置されている 4件(13%) ②設置されていない 27件(87%)
- 7 オストメイト(人工肛門等)対応の設備について  
①設置されている 0件 ②設置されていない 27件(87%) ③この  
ような設備初めて聞いた 4件(13%)
- 8 エレベーターが設置について  
①設置されている 2件(6%) ②設置されていない 29件(94%)
- 9 自動対外式除細動器(AED)の一般市民用について  
①設置されている 1件(3%) ②設置されていない 29件(94%)
- 10 車椅子が1台以上常備されている  
①設置されている 12件(39%) ②設置されていない 19件(61%)
- 11 公衆電話機について  
①設置されている 14件(45%) ②設置されていない 17件(55%)  
↓  
↓  
①高齢者等のために音量調節付 0件 ②音量調節は付いてない 13件  
(93%)③分からない 1件(7%)

今後の計画について伺います

- 12 施設整備について  
①整備計画がある 1件(3%) ②今後予算要求含め考えたい 12件  
(39%) ③予算要求するが難しい 11件(35%) ④その他 7件  
(23%)

ここからはユニバーサルデザインについてお伺いします

1 3 ユニバーサルデザインという言葉をよく聞きますか

- ①はい 20件(65%) ②良く聞くが意味が分からない 5件(16%)  
③あまり聞かない 6件(19%)

1 4 ユニバーサルデザイン推進に向けてNPOとして取り組んで欲しいことを自由にお聞かせください。

\* 避難場所としての機能を高めるということについて、このアンケートがくるまで考えたことがありません。

\* 公共施設におけるユニバーサルデザイン化を推進するための広報活動

\* 財政状況が厳しい中であるが、避難場所に指定されている施設等で障害をもつ人達や老人等が不自由なく動けるような施設整備を進めるための基礎資料作り。

\* 既設の学校施設は地方公共団体の予算の都合もあってユニバーサルデザインの立ち遅れがみられると思うので、その改善への助言やはたらきかけをお願いしたい。

\* 人に優しい街づくり(環境づくり)

\* すべての人が利用しやすい施設が増えるよう行政に働きかけてほしいです。

\* 学校施設等の充実についても取り組んでいただきたい。

\* 避難施設としては不十分である。例えばシャワーがない・・・等

\* ユニバーサルデザインの「どこでも、だれでも、自由に使いやすく」という考えのもとに、街全体が変容していくことが望まれます。その為にも、言葉自体知らない人もいる現状から、常に人々の心の中にユニバーサルデザインの考え方が生きていよう、一層の啓発活動が必要ではないかと思えます。

- \* 県民・住民の視点からの調査活動と提言。
- \* 県民へ他県・他国などの先進的な取り組みの紹介、啓発(既に行っているとは思いますが)
- \* 本校では、校舎建築後 28 年であり、補修する所がかなりあるが、予算要求も含めながら少しでも前向きに取り組んでいきたい。
- \* 具体的な事例の宣伝活動。
- \* 現在の学校施設については「維持」のための予算は何とかつくが「改善」まではとても対応しきれていない。ユニバーサルデザインの視点から、すべての人にやさしい環境への提言をいただき、少しでも近づけることは望むところです。
- \* 用語の意味について詳しく理解しておりませんので申し訳ございませんが未記入とさせていただきます。

## 観光のユニバーサルデザインアンケート調査結果

(岩手県内観光施設及び宿泊設ユニバーサルデザイン調査)

### 目 的

高齢化及び障害者の社会参加に伴い、「年齢、性別、能力の有無に関わらず最大限利用可能な建物、製品、環境、社会」を目指すユニバーサルデザインが叫ばれています。岩手県においては平成12年度に観光施設及び宿泊施設の調査を実施していますが、その調査から4年後の現在、その進捗調査を行ない、今後の観光施策を考える資料を作成するためアンケート調査を行ないますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

Q1. 別紙の平成12年度の調査内容と変更あるいは追加になったところがありますか。

A-ない (Q1-1へお進み下さい)

B-ある (Q2-1, Q2-2へお進み下さい)

結果 ない 11ヶ所 (31.4%)

ある 24ヶ所 (68.6%)

(ないとお答えになった方のみお答え下さい)

Q1-1 その後整備が進んでいない理由をお書き下さい)

回答 ・建物の構造上整備できない(寺院)  
・指定管理者は整備したいと思っているが、設置者の市では要望しても予算計上に至っていない(観光施設)

(あるとお答えになった方のみお答え下さい)

Q2-1 変更及び追加になった内容をお書き下さい

回答 ・多目的トイレを新設した(宿泊施設)  
・盲導犬の受け入れを始めた(宿泊施設。文化施設)  
・オストメイトトイレを設置した(宿泊施設。文化施設)  
・低めの展示台を設置した(観光施設)

- ・車椅子使用者が利用できる体験施設を設置した（観光施設）
- ・障害者駐車場を設置した（寺院）
- ・玄関にスロープを設置した（文化施設）
- ・手に触れる展示品がある（観光施設、文化施設）
- ・洋式トイレを増やした（文化施設）
- ・来館者が利用できる車椅子を設置した（文化施設）
- ・手話ができる社員が入社した（宿泊施設）

Q2-2 変更及び追加になった理由は

- 回答
- ・高齢者が増えたから（宿泊施設）
  - ・より多くの利用者が快適に過ごせるために（文化施設）
  - ・障害者の利用が増えてきたため（宿泊施設）
  - ・介助犬法等、法令の成立（観光施設）
  - ・拝観者が多様化しており、可能な限り対応していく責務があると思うので（寺院）
  - ・ユニバーサルデザインの時代なので（観光施設）

Q3. あなたの施設ではユニバーサルデザイン対応内容についてどのように公表していますか。（複数可）

- Aーホームページで公表している（結果 2ヶ所）
- Bーパンフレットに記載している（結果 8ヶ所）
- Cー問い合わせがあったのみ答えている（結果 13ヶ所）
- Dー特になにもしていない（結果20ヶ所）

Q4. 最近オストメイト（人口肛門、人口膀胱）対応のトイレが増えてきましたが、貴施設では

- Aーある（結果 3ヶ所）
- Bーない（結果 26ヶ所）
- Cーないが、お問い合わせがあった（結果 5ヶ所）
- Dーないが、作る計画がある（ 年 月完成予定）（結果 1ヶ所）

Q5. 高齢者及び障害者の来館についてお答え下さい

Aー以前より多くなった（結果 33ヶ所）

Bー以前と変わらない（結果 2ヶ所）

Cー以前より少なくなった（結果 0ヶ所）

Dーその他（理由 \_\_\_\_\_）  
（結果 0ヶ所）

Q6. 高齢者や障害者などの利用者からご要望やクレーム（苦情）はどのようなものがありましたか

- 回答
- ・ 駐車場から建物まで遠い（寺院）
  - ・ 階段が多い（文化施設）
  - ・ 洋式トイレが少ない（文化施設）
  - ・ 段差を解消してほしい（文化施設）
  - ・ イスが少ない（観光施設）
  - ・ お風呂場に手すりをつけてほしい（宿泊施設）

Q7. 観光客の高齢化が言われていますが、あなたの施設ではどのような対応をされているでしょうか。具体的にお答え下さい

- 回答
- ・ 構造上無理な場所なので出来るだけ人で対応している（寺院）
  - ・ 文字を大きくしたり音声ガイドをしている（観光施設）
  - ・ トイレの改修を行なう予定（観光施設）
  - ・ 低カロリーメニューを用意した（宿泊施設）
  - ・ アンチエイジング食の提供（宿泊施設）
  - ・ ゆっくり話すなどソフト面のサービス（寺院）
  - ・ 目配り、気配りとお客様の要望をよく伺う（宿泊施設）
  - ・ 説明版の簡略化（観光施設）
  - ・ 車椅子の貸し出し（観光施設）

Q8. 誰もが楽しくすごせる観光地を目指すために観光行政、観光団体に望むことは（複数可）

Aー地域での研修会の開催（結果 20ヶ所）

Bーあなたの施設への講師派遣（結果 11ヶ所）

Cー補助金等に関する情報の提供（結果 4ヶ所）

Dー先進地視察（結果 6ヶ所）

Eー観光ユニバーサルデザインに関する資料の提供（結果 10ヶ所）

Fーその他（ ）

- 回答
- ・地域内無料バスによるサービス
  - ・観光地図に地域のバリアフリー情報を入れてほしい

Q9. 高齢者や障害者を含めたすべて人が楽しめる観光地づくりについてあなたのご意見をお聞かせ下さい。

- 回答
- ・エリア全体のレベルアップが必要
  - ・特別に意識することなく自然に接客するようにしたい
  - ・ユニバーサルデザインの推進が必要である
  - ・行政の強いバックアップが重要である
  - ・これから益々高齢者や障害者が増えてくる。一施設では限界があるので地域のサポートが必要だ

## 一般県民ユニバーサルデザイン意識調査

(小学校父兄に実施したユニバーサルデザインアンケート調査結果)

Q1. ユニバーサルデザインという言葉を知ったことありますか？

- 1 聞いたことあり理解している 45 件(32%)
- 2 聞いたことあるが意味が分からない 47 件(33%)
- 3 聞いたところない 50 件(35%)

Q2. Q1 にて、1 または 2 と答えた方にお聞きします。「ユニバーサルデザイン」という言葉を知ったきっかけをすべて教えてください。

- 1 県の広報誌 11 件(8%)
- 2 県政番組 9 件(6%)
- 3 市町村の広報誌 10 件(7%)
- 4 タウン誌 15 件(10%)
- 5 新聞 27 件(19%)
- 6 テレビ 55 件(39%)
- 7 講演会、フォーラム等 5 件(4%)
- 8 地域活動(まちづくり運動など) 1 件(0.7%)
- 9 その他 (\*子供が学校で学んだことを話してくれた \*仕事柄 \*雑誌で) 28 件(20%)

Q3. 今までの生活の中で(子育て、介護、外出移動、旅行、仕事など)不便だと感じたことがありますか？

- 1 よくある 30 件(21%)
- 2 たまにある 91 件(64%)
- 3 特にない 21 件(15%)

Q4. Q3 にて、1 または 2 とお答えになった方にお聞きします。不便だと感じたところどんなところですか？

- 1 県立施設 15 件(11%)
- 2 市町村施設 28 件(20%)
- 3 国立施設 5 件(4%)
- 4 病院 54 件(38%)
- 5 学校施設 22 件(15%)
- 6 駅・電車 54 件(38%)
- 7 バス 39 件(27%)
- 8 空港・航空機 2 件(1%)
- 9 港・フェリー 0 件
- 10 公道 30 件(21%)
- 11 その他 4 件(3%)

Q5. 今後、少子高齢化が進むと言われていますが、すべてのひとが暮らしやすい社会の実現に向けて「ユニバーサルデザイン」の考え方が必要だと思いますか？

- 1 必要だと思う 113 件(80%)
- 2 それほど必要ではない 14 件(10%)
- 4 必要でない 1 件(0.7%)
- 5 わからない 11 件(8%)

Q6 岩手県では、平成8年4月に「ひとにやさしいまちづくり条例」が施行されていますが、「ひとにやさしいまちづくり条例」について知っていますか？

- 1 知っている 7件(5%)
- 2 知っているが詳しく分からない 62件(44%)
- 3 知らない 70件(49%)

Q7 あなたの年齢を教えてください。

- 1 10代 0件
- 2 20代 5件(4%)
- 3 30代 67件(47%)
- 4 40代 57件(40%)
- 5 50代 7件(5%)
- 6 60代 2件(1%)
- 7 70代 0件
- 8 80代以上 0件

(子どもの人数)

1人：15人 2人：50人 3人：24人 4人：7人 5人以上：1人

Q8 ご職業を教えてください。

- 1 自営業・自由業 4件(3%)
- 2 会社員 41件(29%)
- 3 パート・アルバイト 39件(27%)
- 4 公務員 14件(10%)
- 5 販売員 0件
- 6 主婦 23件(16%)
- 7 学生 0件
- 8 その他 12件(8%)

Q9 すべてのひとが暮らしやすい社会の実現に向けて意見があればお聞かせください。

\*世間体を保つための取り組みや、形だけのアピールではなく本当に使いやすいもの、利用しやすいもの、一番使いたい人の身になって考え、形にしてほしい。

\*施設や物の充実は必要だと思いますが、お互いを思いやる心の豊かさがないと円満に幸せになっていかないと思います。

\*スクールバスや公共交通機関の充実、歩行者にやさしい街づくり

\*施設、製品など物的環境を整えていくことも必要であるが、人を思いやり支えあう気持が一番大切であると思う。

\*ユニバーサルデザインは日常生活に浸透してきているが、危険を予知する能力の低下や、自然のまま生きる生活も含めて考えていく。もう一步先が見えてくるのではないかな？具体的案はないが、このまま使いやすさを追求するのも限界があると思います。

\*どんな境遇の人でも快適に暮らせるように公共の施設などから模範を示すような環境作りをすれば徐々に一般の人達にも浸透していくのではないかと期待しています。

\*どんなに暮らしやすい街づくりをしたとしても、今の状況では(国のあり方税制 etc)子供達も育たないし、お年寄りも生活しづらい。

\*すべての施設、それをつなぐ交通・移手段のユニバーサルデザイン化は必要であり、一体化することによってその効果も表れると思うが、なんせ費用がかかりすぎるのが難点。限られた予算内でどこまで理想に近づけるか。

- \* すべての人のあらゆる目線をすべての人が理解しようと思えたら良いのですが。少しずつでも一つずつでも気づき、歩み寄ることが大切だとも思います。
- \* 目的の場所に行きたい時、標識(表示)を探します。その物を大きく、わかりやすく表示してほしいです。
- \* 「暮らしやすい」は人によって違うと思うので「すべての人」となると難しいです。私事ですが、何人子供ができて、一般的な一人っ子、二人っ子と同じような生活が保障される社会であれば子供にたくさん兄弟姉妹をつくってあげたいです。子供達が危険も感じないで外に出歩けるような社会になってほしいです。
- \* 「すべてのひとが暮らしやすい社会」というのは大変難しいことだと思いますが、矢巾町はバスの便の悪い所だと思います。路線・本数共に。学生(小学生も)はバスを利用できなければ結局自力で歩くか家人の車での送迎になります。が事件の多い昨今それに現状が比例していないように思われます。
- \* 地域性を基に、人(子供達)も含めた集まり・イベントを定期的を実施する。
- \* わかりやすい行政が大事だと思う。介護保健の仕組みなど複雑すぎて老人はなお更理解出来ず、ただ高くなったと思っているところがあるようだ。IT 産業の進歩とともに、人間らしい情の深い人間くささが失いつつあるようで考えていただきたい。
- \* 特に移動手段である駅、バス等での乗り降りでの段差のない移動が出来れば一人での行動範囲も広がると思います。
- \* 休日の小児科の当番医とか、病院とかもう少し充実させてほしいです。
- \* 一人一人が「自分だけが良ければ」との考えを改め、「他人の為に」とか「廻りの人の為に」という意識を持つ事が大切。すべてを行政に頼るのではなく、自分が出来る事(身障者用駐車スペース確保、違法駐車禁止、通路等への自転車の駐輪禁止など)から、マナー良く!
- \* ユニバーサルデザインにしようとして、ハード面にむやみと費用をかけている例もあるのではないかと思います。どのようなものにすれば本当に全ての人に(どのような人に対しても)使いやすい物になるかよく考えてから導入してもらいたいと思います。造りっぱなしでなく、どのように使われているか、役立っているかの調査、検証も忘れないで欲しいです。
- \* 歩道と歩道の間にある縁石(2cm~3cm 位のやつ)が自転車にのっていてもベビーカーを押していてもジャマ。歩道にデコボコが多すぎると思います。点字ブロックも大事ですが、その脇にベビーカーを押してあるけるスペースが欲しいと思います。
- \* ユニバーサルデザインを生かした建物や公共施設をつくることも大切なことだと思うが、もっと大切なことは一人一人が思いやりの心をもつことだと思う。
- \* 多くの物事が、健康である人を前提に基準に考えられていると思うので、そうではない状態にある人達の意見を聞いたり取り入れたりすることが必要だと思う。税金をそのような目的に使うなら沢山使ってもらっても構いません。誰でもいつかは年をとり、病気にもなるのだから。

- \* 「みんなが」というところとっても難しいと思います。みんなから（本当の意味で）意見を聞きすすめてほしいと思います。
- \* 障害をもった子の親ですが、子供の将来を考えると不安なことばかりです。今までにげなく生活していましたが、障害をもった立場になってみると、買い物一つとっても様々な不便を感じます。相手の立場になって理解すること・・・まずはそれが大事だと思います。
- \* 種々様々なケースを想定し、有効性を高め追及していく姿勢が大切！！
- \* 小さい時からの教育が大切だと思います。ひどすぎる親が多すぎます。親の教育も大切だと思います。親資格のない大人がたくさんいます。
- \* 少子高齢化～子供達が大人になりたくさんの高齢者をかかえて生きていく時代・・・子供達が大人になる！ということをもう少し考えてほしい。高齢者にやさしい社会だけでなく、子供達・少年達にやさしい社会でもあってほしい。周りは高齢者に必要な施設や情報ばかりが多い。これから社会で生きていく年代のことも見てほしい。
- \* 行政改革が必要です。町会議員さんが多すぎる。適正ない教員をリコール（年間 1,000 万以上の収入）を 10 年で 1 億円。税金の本当のムダをやめて、介護死や虐待のない真の豊かな岩手県矢巾町をめざしてほしいです。町営住宅に家族で分離して暮らし、年金も月 18 万以上各々もらい、とても裕福に暮らしている 50 代の女性がいます。血縁関係を重んじる日本は間違ってます。

## 岩手県内のユニバーサルデザインに 取り組む市民団体への意識調査

実施日	地 域	ヒアリングした団体名
8月24日	久 慈	久慈 UD 推進隊
8月29日	一 関	両磐地域まちづくり探検隊
9月 9日	北 上	NPO アクセシブル北上会員
9月12日	大船渡	気仙ひとにやさしい街づくり協議会

### ヒアリング内容

- ・ 行政の中でも警察と教育委員会が UD に対する意識が低い
- ・ 教育委員会は取り組み意識がない
- ・ 一般市民の意識が広がっていない
- ・ 行政の書類はわかりやすく、読みやすく。
- ・ 障害者駐車場の不正使用が多い
- ・ 公衆トイレが少ないというよりない
- ・ 以前よりは役所の人がわかってもらえるようになった
- ・ 障害当事者にもっと目を向けてほしい
- ・ 縦割り行政の弊害がある
- ・ UD を本格的にやるなら総合政策室でやってほしい
- ・ 災害があっても学校に車椅子トイレがないため避難できない
- ・ ベビーカーを押して街に出るとバリアが多いのに気づく
- ・ オストメイト用トイレが増えてきたのがうれしい
- ・ 盛岡駅前に横断歩道がなく、足の不自由な人だけでなく観光客にも不親切
- ・ 点字ブロックを統一してほしい
- ・ 妊婦時代、もっと人の理解があれば気楽に出かけることが出来た
- ・ 聴覚障害は外見からわかってもらえず苦労している
- ・ スーパーやコンビニに手話が出来ることがほしい
- ・ もっと市町村が一生懸命にならないと変わらない
- ・ 低床バスを増やしてほしい
- ・ 小学校の低学年から UD を取り入れた教育をしてほしい
- ・ 寒冷地の UD を考えてほしい、冬が出かけられない